

きのこの抗インフルエンザ感染作用

インフルエンザについて

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。
毎年11月下旬・12月から4・5月にかけて季節的に流行がみられます。
また、2009年には新型インフルエンザ(A型H1N1)が世界各地で大流行しました。

インフルエンザの症状

- ・発熱(通常38℃以上の高熱)
- ・頭痛
- ・全身倦怠感
- ・筋肉痛・関節痛

インフルエンザの予防と治療

- 1) 流行前のワクチン接種
- 2) 外出後の手洗い
- 3) 適度な湿度の保持
- 4) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- 5) 人混みや繁華街への外出を控える
- 6) 感染後は抗インフルエンザ薬が有効

インフルエンザの予防・治療にはワクチン接種や抗インフルエンザ薬が有効とされていますが、その副作用も懸念されています。

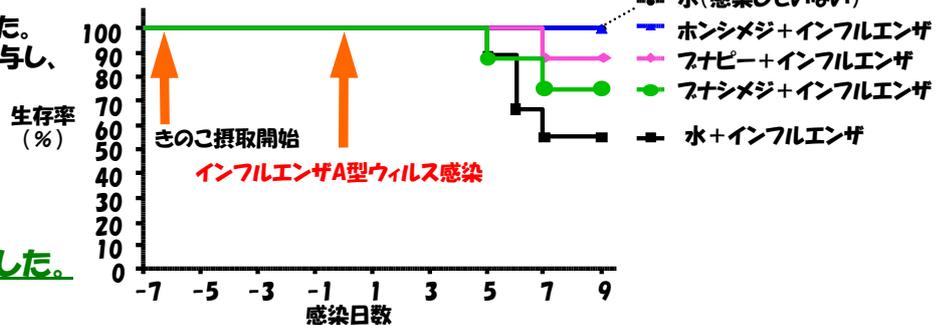
免疫増強作用があると報告されているきのこ類に着目し、インフルエンザA型ウイルス感染におけるきのこ摂取の影響を検証しました。

<実験方法と結果>

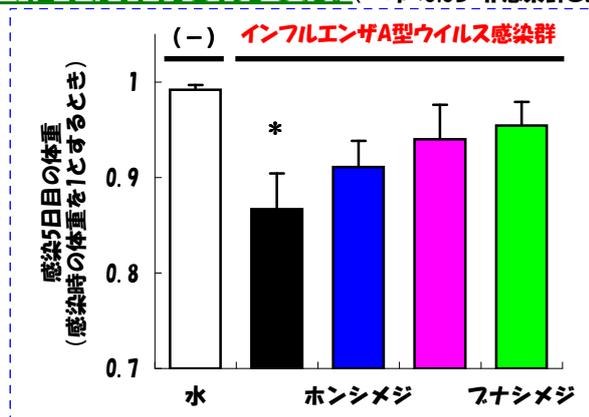


・ホンシメジ、フナピー、フナシメジを用いた。
・感染7日前より、1日1回きのこを経口投与し、感染後は9日間観察を行った。

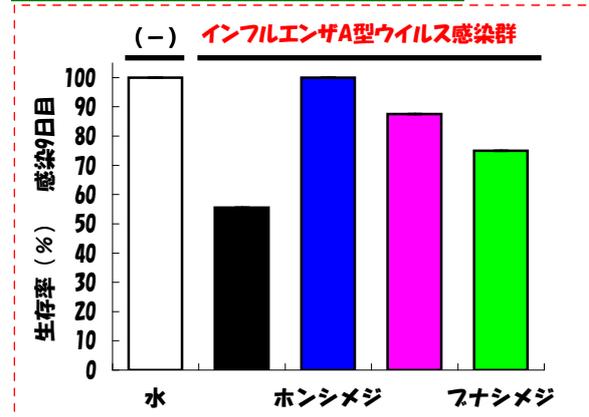
結果1:
きのこ摂取群では、インフルエンザ感染後の生存率の低下が抑制されました。



結果2:
きのこ摂取群では、インフルエンザ感染5日後の体重の低下が抑制されました。(*: $p < 0.05$: 非感染群と比較)



結果3:
きのこ摂取群では、インフルエンザ感染9日後の生存率の低下が抑制されました。



きのこ摂取群(ホンシメジ、フナピー、フナシメジ)では、インフルエンザA型ウイルス感染による体重の低下、生存率の低下が抑制されました。
この結果より、日常的に摂取できる安心・安全なきのこによる、インフルエンザ感染の予防や、抗インフルエンザ薬と併用して、その副作用を軽減できることが期待されます。

試験の詳細は、日本機能性食品医用学会第8回大会(2010年12月11-12日、滋賀)にて発表されました。

※無断での複製・転載・使用を固くお断り致します。

ホクト株式会社 本社〒381-8533 長野市南堀138-1 TEL: 026-243-3111(代表)

